

生徒のみなさん今回の現場見学・体験学習はいかがでしたでしょうか？
震災からの復興はまだまだ道半ばの状況であり、皆さんのような若い力が今後の東北、日本のために必要です！
土木技術の担い手として皆さんが活躍される日を楽しみにしております。
今回はお疲れ様でした。また、どこかの現場でお会いしましょう。



工学びと実践の橋渡し

石巻 土木科 3 年生 復旧現場見学でプロ意識

老朽化と震災による被災で架け替え工事が進む国道45号天王橋の現地で21日、石巻工業高校土木システム科の3年生37人が現場見学・体験学習を行った。春から県内の土木職に就く生徒も多く、ボルトの本締めや玉掛け作業などを実際に経験。現場で従事するプロの指導を受け、意欲を高めていた。写真。

現場を請け負う瀧上工業が主催し、国交省東北地方整備局石巻国道維持出張所が共催した。現地では11月7日にも地域住民向けの見学会を開いており、約230人が参加した。今回の体験学習は毎

年数回、同様の見学を行っている石巻工業高側から打診を受け実現したもので、実践も取り入れた。

旧北上川をまたぎ、鹿又と小船越を結ぶ天王橋は架橋から56年が経過。老朽化と震災による部分損傷が著しいことから昨年10月から架け替え工事が進んでいる。総延長は372メートルで現橋のすぐ上流側に架けられ、車道幅は現在より1・5メートル増の7・5メートル。震災後増加している大型車両も通りやすくなる。

現在工事は陸上部の橋台設置が終わり、旧北上川の架設作業中。高校生は実際に架橋に



用いられる手延機のボルト締めのほか、足場

の固定具「クランプ」の取り付け、玉掛け作業主任者の資格を持っている生徒は同作業の体験に取り組んだ。

土木システム科3年生のうち15人は来春から県内の土木関係の

会社に就職するほか、8人は土木系大学に進学。石巻市相野谷の総武建設に就職する渡辺陸さん(17)は「資格取得の際の講習より機械が大きく難しかった。現場での経験は貴重なので勉強になる」と語っていた。

現場には同校OBもおり、東北重建の阿部祐樹さん(37)は「私たちの仕事は地図に残る仕事。ぜひ橋の工事に関わる生徒が出てきてくれれば」と後輩たちに期待を込めていた。

託予定

画案を発表

葬炉3基と動物用火葬炉1基を備える。また、敷地内には防災調整池、約50台分の駐車場のほか、将来的な建て替え用地を芝生広場としてあらかじめ確保してい

る。今後、地域住民への説明会を経て、来月14日から29日の間で都市計画案の縦覧を行い、2月中旬の都市計画決定を目指す。建設に係る設計業務は来年度発注予定で、選定方法は今のところ未定。なお、基本計画の策定は国際航業が担当している。

の事業概要などについて説明を受けた後、現場へ移動。玉掛けの有資格者21人を含む39人が3班に分かれ、200ポンドローラーを使った玉掛け、ボルト締め、足場クランプの締め付けを体験した。

このうち玉掛けでは資格を持つ生徒が、パイプの束をワイヤーでくくった後、手を上げ下げしたり頭上で回転させたりしてクレーンオペレーターに合図を送り、パイプを移動させた。玉掛けに参加した生徒の一人は「クレーンの操縦者との意思疎通が難しかったが、この経験が将来に役立つと思う」と緊張した面持ちで話していた。

石巻工高生が玉掛けなどを体験

瀧上工業 国道45号天王橋で現場実践見学会



瀧上工業（愛知県半田市瀧上昌義社長）は21日、石巻市の国道45号天王橋上部工復旧工事現場で、宮城県石巻工業高等学校の生徒を招き現場実践見学会を行った。東北地方整備局との共催によるもので、生徒たちは玉掛けなどの作業に挑戦し、授業では得られない現場の厳しさ、難しさを学ん

だ。参加したのは土木システム科3年生。同校で天王橋

三協技術で設計

会 七ヶ浜町 介護施設の新築

社会福祉法人・功寿会（松島町桜渡戸字中島14の1内海功理事長）は、七ヶ浜町に地域密着型介護施設の新築を計画しており、設計を三協技術に委託している。

建設場所は七ヶ浜町東宮浜字要害38の15ほか地内で、敷地面積は約1500平方メートル。計画では、W造平屋建て、延べ596平方メートルの介護施設を建設。定員は9人×2ユニットの18人で、施設内部には居室、居間、食堂、浴室、トイレ、交流スペースなどを配置す

る。来年度早々にも条件付き一般競争入札で施工者を選

建災防大崎分会

安全な現場づくりを

年末安全大会

建設業労働災害防止協会宮城県支部大崎分会（石堂昌宏分会長）は17日、大崎市の大崎建設産業会館で建設業年末年始労働災害防止安全大会を開催し、会員約

90人が安全を誓った。あいさつに立った建設業労働災害防止協会宮城県支部大崎分会の石堂昌宏分会長は「災害をなくすことが一番。互いを思いやり、災害防止に務め安全な現場づくりをお願いしたい」と呼び掛けた。

この後の安全講話では、古川労働基準監督署の大友雅志署長が「年末年始は天

建設新聞

K

発行所
建設新聞社

〒980-0821 仙台市青葉区春日町7-5

市外局番(022)221-下記番号

総務部 4601

FAX221-4633

編集部 4602

FAX217-4170

編集事業部 4603

FAX221-4637

営業部 4604

FAX268-6416

編集事業部情報室 4606

FAX221-4637

©建設新聞 2015

H27.12.25

ボルト締め作業

現場代理人の説明を真剣に聞く生徒の皆さん



ボルトの締め付け体験の様子



ボルトの締め付け強さを体感



玉掛け(クレーンに物を を掛け外しする)作業

吊り荷にワイヤーロープを掛ける様子



クレーンオペレータに合図をする様子



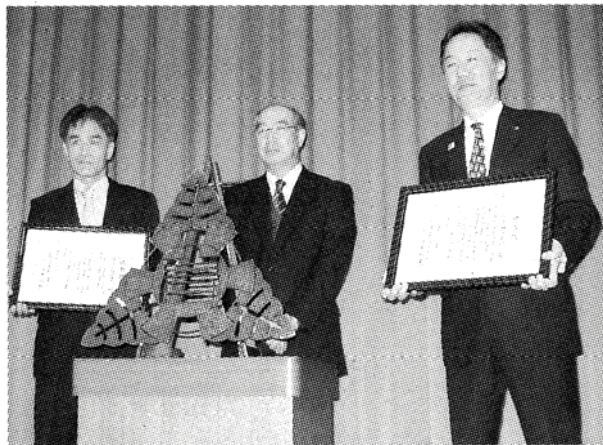
建設新聞

宮城県石巻工高

「ものづくりの喜びを学べた」

東北整備局、瀧上工業に感謝状

宮城県石巻工業高等学校（佐藤明嘉校長）は2月29日、現場見学会に協力した東北地方整備局仙台河川国道事務所と瀧上工業に感謝状を贈呈した。同校屋内体育館で行われた感謝状贈呈式では、佐藤校長が「生徒は建設現場での実体験を通し、



左から田中所長、佐藤校長、瀧上社長

ものづくりの喜びと素晴らしさを学ぶことができた」と述べ、仙台河川国道事務所石巻国道維持出張所の田中隆紹所長と瀧上品義瀧上工業社長に感謝状を手渡すと、全校生徒からの拍手が会場に響いた。

見学会は昨年12月、宮城県石巻市の国道45号天

つ。瀧上社長は「皆さんが思っている以上に皆さんの力をわれわれ建設業は必要としている。皆さんと一緒に東北を盛り上げ、石巻を復興させたい」と呼び掛けた。

感謝状贈呈に先立ち瀧上社長は、工場で製作した同校の校章を佐藤校長に贈呈した。

王橋上部工復旧工事で行われ、土木システム科3年の約40人が玉掛けやボルト締めなどを体験した。

石巻国道維持出張所の田中所長は「今後ともこうした機会をつくるので、一人でも多くの若い方々が建設業に興味を持ってほしい」とあいさ

感謝状

瀧上工業株式会社 殿

貴社は国道45号天王橋上部工復旧工事に際しまして本校生徒に現場見学会の実施と校章を寄贈されました

生徒は建設現場での実体験を通してものづくりの喜びと素晴らしさを学ぶことができ本校の教育活動の充実に大きく貢献されました

よってここにそのご厚意に対し深く感謝の意を表します

平成二十八年二月二十九日

宮城県石巻工業高等学校

校長 佐藤 明嘉

